

京都図書館大会
2016. 8. 8

**「第三の場」
(サードプレイス)
としての図書館**

**Library as
“The Third Place”**

久野和子(神戸女子大学)

(1) 「Library as Place」の誕生

< 1990年代アメリカ >

- 図書館消滅論(ランカスター、カールソンなど)
- 「access vs. holdings」(アクセスか所蔵か)
- デジタル・ライブラリー(電子図書館)

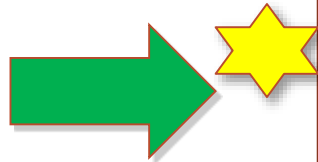


Library as Place

「場(場所)としての図書館」

2000年代

現代社会における場所の均質化と
人間関係の希薄化



新しいタイプの図書館

イギリス アイデア・ストア
イタリア サン・ジョヴァンニ図書館 等



新しいタイプの図書館研究

社会学、歴史学、地理学、文化人類学、
建築学などの多様な研究方法や理論を
応用した「場としての図書館」研究

(2)「Library as Place」研究の新規性

伝統的な研究課題：「情報」「教育」「学習」

→ 「図書館の中の生活における利用者」
(the user in the life of the library)

上からの視点



新しい研究課題：**「場(場所)」** **「生活」**

→ **「利用者の生活の中における図書館」**
(the library in the life of the user)

下からの視点、批判的研究

(ウェイン・ウィガード)

(3) Library as Place

「場としての図書館」研究の主張

図書館はデジタル・ライブラリーや電子書籍に簡単に置き換えられるような単なる本や情報資源の集積体ではなく、住民のアクチュアルな**日常生活と学び**を豊かなものとし、**知的出会いと社会的交流**を促し、**コミュニティの文化、歴史、つながり**を保持するリアルな場であり、場所を基盤とした多様な機能と価値をもつ。

「場」としての図書館研究

物理的な「場所」 (上からの視点, 固定的)



★人間的な「場」 (下からの視点・利用者の生活の中での図書館)

①活動 (学習活動、社会活動、生活活動、市民活動など)

②関係性 (多様な出会いと交流、つながり、相互作用)

③共創 (共存・共有・共感による創造)

クルト・レヴィン『社会科学における場の理論』誠信書房, 1972

岩崎正弥・高野孝子『場の教育』農文協, 2010

清水博『場の思想』東大出版会, 2003

(4) 「第三の場」(THIRD PLACES) について

<定義>

(R.オールデンバーグ)

★堅苦しくない公共的な集まりの場
(informal public gathering places)

イギリスのパブ、フランスのカフェ、

ドイツのビアガーデン、

アメリカの開拓時代の居酒屋

*「第三の場」(THIRD PLACES) の定義

(R.オールデンバーグ)

「第一の場」＝家庭

「第二の場」＝職場

★「第三の場」＝住民の日常生活における
たまり場
居場所
お気に入りの場所

*良き「第三の場」(THIRD PLACES)の 8つの特徴

(R.オールデンバーグ)

- ① 中立地帯
- ② 平等主義にして包み込む場
- ③ 会話を主要な活動とする
- ④ アクセスしやすく、協調的である
- ⑤ 「常連」がおり、新参者も歓迎する
- ⑥ 建物は目立たず日常にとけ込む
- ⑦ 陽気な遊び場的な雰囲気
- ⑧ もう一つの家

*「第三の場」(THIRD PLACES) を支える基盤

(R.オールデンバーグ)



「世話人」(public character)の存在

- ・ その場所が、楽しく、居心地よく、安全であるように維持管理している経営者もしくは雇用者。
- ・ 「客の名前をすぐ覚え、愛想良く挨拶し、客と客とを引き合わせる」。
- ・ 「近所のあらゆる人々を知っていて、地域のことを気にかけて」いる。

図書館が「**第三の場**」たる基盤

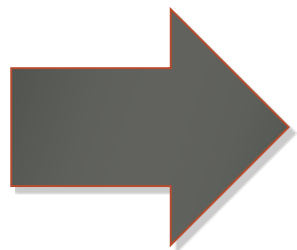
★地域のこと、地域の人々、情報・情報資源をよく知り、それらをむすびつけることができ、**中立、平等、安全、快適な場所**を維持管理できる**優れた図書館員の存在**

★利用者が自由に**会話や社交**ができる
明るく居心地良い雰囲気があること

*「第三の場」(THIRD PLACES) が もたらす**個人的利益**

(R.オールデンバーグ)

- ・ **社交性**、会話技術の向上
- ・ **目新しさ**や刺激
- ・ **多種多様な人々**との**身体的、実体的、対面的なコミュニケーション**・**社交の楽しさ**
- ・ **ストレス解消**、**帰属意識**などの**精神的支え**
- ・ **人間性**や**人生観**についての**肯定的見方**
- ・ **仲間同士の情報交換**と**相互援助**

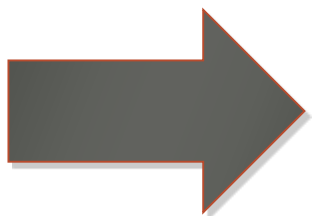


個人の幸福な生活と**社会関係資本**
の**効果的創出**

*「第三の場」(THIRD PLACES) がもたらす社会的効用

(R.オールデンバーグ)

- ・ 草の根**民主主義**を支える(議論と会合の習慣)
- ・ **色々な人々との出会い**の場を提供する。
- ・ **平等主義**の実践の場を創出し、あらゆる個人を包括し支援する。
- ・ **善**を促進し、統制する機関となる。
- ・ コミュニティの**安全・秩序・活気**を支える。



地域の活性化と**社会関係資本**の創出

(5) 「社会関係資本」 (ソーシャル・キャピタル)の定義

***定義**：「人々間のつながり、すなわち
信頼と互酬性という規範に裏打ち
された社会的なネットワーク」

Putnam (2000)

***効用**：★政治、経済、福祉、教育、地域
社会を十分に機能させるのに
必要不可欠

★個人の**健康と幸福**を支える

パットナムのベストセラー

◇ 『孤独なボウリング：米国コミュニティの崩壊と再生』 (2000)



アメリカでは1960年代まで、ボウリングはグループでやるもので、その上、他の様々なグループとリーグ戦を行なうことが多かった。つまり、多様な人々と一緒にボウリングを楽しみ、交流をもっていた。しかし、1970年代からリーグ戦をすることが少なくなり、最近では、なんと一人でボウリングを楽しむ人が増えてきた。

柴内 康文訳、柏書房、2006年

(6) 「第三の場」の有力候補

★地元密着で堅実な商売をしている

インフォーマルな小さな自営業の店

地味、安価、小規模、身近、独自性がある

訪問者がユニークな個性を持った人間となれる

人間的な交流、会話、くつろぎがある



非場所 (non-place)

ショッピングモールやチェーン店、独自性ない

訪問者は単なる顧客（孤独、物欲、消費、多忙）

監視

(オールデンバーグ1989)

*公立図書館はオールデンバーグの候補リストに入っていない。

その理由はおそらく

□ 公立図書館は

- ・ 一番重要な「**会話を主要な活動にする**」
に合致しない
- ・ インフォーマルで小さな自営業ではなく、
その対極にある

フォーマルで大きな公立の制度的施設

☆ 図書館が「第三の場」であるためには

- 常駐の魅力的なすぐれた司書がいる
- 普段着で歩いていける立地
- 建物は日常生活の一部となる
- 誰にとっても明るく快適で居心地良い空間
- 会話、出会い、交流がある
- あらゆる利用者が平等に尊重される
- 常連の利用者、支援者の積極的な参加
- 食事・飲料の提供は魅力的だが必須ではない。
- 中立、安全、秩序、活気のある場である

(7)これからの研究の方向性

- 小規模で活動が盛んな分館や学校図書館のフィールド調査



より身近な図書館の必要性和価値

- 図書館は「エテロトピ(混在郷)」

「単一の現実の場所にいくつかの空間-それら自体においては相容れないいくつかの場-を並列させることができる」

特別な場所

(M. フーコー(Michel Foucault))



「第三の場」 = 人々のニーズや活動によって
主体的、暫定的に創出される
多様な場の一つ

(8)これからの**場**としての 図書館の方向性

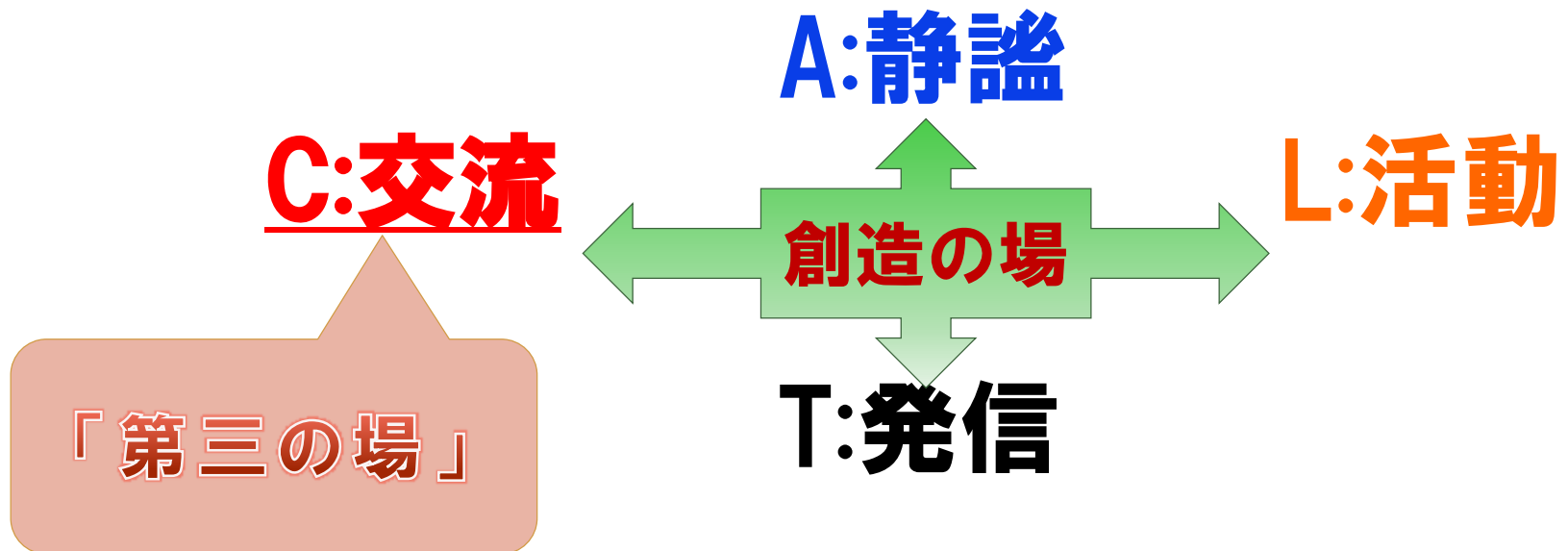
フィンランド中央図書館構想

住民への希望調査による結果

- 1) **Silence** 静謐
 - 2) **Action/ events/ doing** 活動
 - 3) **Digital services & IT** デジタルサービス
 - 4) **Working, learning & DoItYourself** 学習、作業
 - 5) **Children and other special target groups** 児童
 - 6) **Collection/ contents** コレクション
 - 7) **"All day long"-services** 滞在型サービス
 - 8) **Architecture, furnishing & interior decoration**
建築、家具、インテリア
- Other

エテロトピとしての図書館

相容れない多様な場を包摂し、
「創造の場」「課題解決の場」を
インタラクティブに創出する。



(9) まとめ：図書館が「第三の場」を包摂することの意義

- ① 図書館が住民にとって魅力的な生活の場となる
- ② 「第三の場」の様々な社会的、個人的効用が地域や利用者にもたらされる
 - ・ 多様な文化、民族、個人の相互理解とつながり、地域の知的、文化的交流の促進
- ③ 橋渡し型「社会関係資本」を創出・蓄積する
 - ・ 地域社会の活性化や個人の幸福
 - ・ 図書館の本来の機能と役割の十分な発揮
- ④ 地域における「創造の場」「課題解決の場」をつくりだすことができる

□ ご静聴ありがとうございました。

この研究は科研費助成事業平成26年度～28年度「基盤研究（C）」「『場としての図書館』の統合的研究：日本の新しい21世紀型図書館パラダイムの提唱」の助成金の交付を受けて実施されました。